

音楽科学習指導案

日 時 平成 21 年 11 月 19 日 (木) 5 校時
学 級 3 年 A 組 (男 19 名 女 10 名 計 29 名)
場 所 音楽室
授業者 教諭 小 出 勘 一

1 単元名 身近な楽器に挑戦しよう (「ウクレレ」に挑戦しよう)

2 単元について

本単元は、学習指導要領の内容、表現の器楽及び創作を受けて、設定したものである。学習指導要領の「内容の取り扱いと指導上の配慮事項」には、「器楽の指導については、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器および世界の諸民族の楽器を適宜用いること。」とある。

「ウクレレ」を選んだ理由は、ギターなどと構造がよく似ていて、楽器としての機能性から考えても「旋律が弾ける」「和音で伴奏ができる」など管楽器などとは違った特徴を持っていることである。また、小さく手軽で安いなど庶民に愛される要素をもった楽器と考えられる。また、今日の世界のポップス界においては、ギター属を意識した曲作りがほとんどであり、今後に於いても大変重要な楽器であると考えている。

3 生徒の実態

3 年 A 組は元気で明るい学級である。前向きで受容的な生徒が多く真剣且つ楽しく学習する生徒である。

器楽については、小学校に於いて鍵盤ハーモニカやリコーダー、打楽器を経験しているが、弦楽器については未経験である。そのため、通常より時間がかかるだろうと考えて多めの時間を配当することにした。西南地区は、スポーツが盛んであるが音楽は生徒の日常生活にあまり浸透していない。

しかし、生徒は、音楽に対する関心が決して低くない。学習の機会に恵まれれば、音楽に対する感性や技能を自ら磨こうとするようになるのではないかと感じさせる前向きな生徒達である。

ウクレレは、ギター属弦楽器の中では中学生には大変取り組みやすい構造の楽器である。手に優しいガット弦であること。小さな手にも適した細く短いネックであること。弦が四本で押さえやすいことなどがその理由として挙げられる。

本校では 3 年生が技術家庭科の授業でウクレレを製作しており、全員が自作のウクレレを所有している。楽器としては、やや性能に難があるものの、自分の楽器で学習させることで愛着を持たせたいと考えている。

4 単元の目標と単元の評価規準

(1) 単元の目標

- ・「ウクレレ」に関心を持ち意欲的に取り組むことができる。
- ・「ウクレレ」の音の良さを感じながら旋律や伴奏やアンサンブルを楽しむことができる。
- ・旋律と伴奏を弾くこと、また、それらを組み合わせてアンサンブルができる。

(2) 単元の評価規準

単元名	音楽に対する関心、意欲、態度	音楽的感受や表現の工夫	表現の技能
表現・器楽 身近な楽器に挑戦しよう	ウクレレの音色や基礎的な奏法の特徴に関心を持っている。 意欲的に取り組んでいる。	ウクレレの音色や基礎的な奏法の特徴を感じ取りながら表現活動をしている。	ウクレレの構造や基礎的な奏法をよく理解するとともに基礎的な演奏技術を獲得している。

5 指導計画と評価規準（4時間計画）

学習内容	音楽に対する 関心、意欲、態度	音楽的感受や表現の 工夫	表現の技能
第1時 楽器点検 構え方、 弾き方、調弦の仕方 ギターポジションと 音階学習の復習	ウクレレに関心を持 って意欲的に取り組 んでいる。	ウクレレの音色の良 さを感じ取りながら 学習している。	ウクレレのポジション の学習をもとに試行錯 誤しながら演奏技術の 習得に努力している。
第2, 3時 音階練習 よく知っている旋律 の演奏とコードスト ロークの学習	今までに学んでいる 知識や経験を活用し て意欲的に取り組ん でいる。	奏法の違いによる音 色の違いに気づき、 よりよい響きを求め ている。	階名唱ができる。ポジ ションを確認しながら 旋律を弾くことができ る。
第4時 コードストロークの リズムの工夫 アンサンブル発表会 (本時)	意欲的に取り組ん でいる。		ストロークを工夫す ることが出来る。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「アロハ・オエ」のストロークのリズムを工夫し、簡単なアンサンブルができる。

(2) 本時における具体の評価規準

	具体の評価規準		C 支援が必要な生徒 への具体的な手だて	評価方法
	B 概ね満足	A 充分満足		
関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度	積極的に参加 することができる。	積極的にグループ アンサンブルに参加 することができる。	基礎的内容を中心に指 導し、能力にあった課題 を与える。アンサンブル では同じパートを受け持 つ生徒のサポートをつけ るなど支援体制を組む。	観 察
表 現 の 技 能	ストロークの リズムの工夫に 挑戦することができる。	旋律の演奏やストロ ークのリズムを意図を 持って工夫し演奏す ることができる。		

(3) 本時について

本時は、新学習指導要領解説の器楽及び創作の思考力・判断力・表現力を高める活動を具現化したものである。

ギターのポジションの学習を基に、旋律の演奏とコードストロークを組み合わせた簡単なアンサンブルをグループ毎に取り組ませることで、基本的な演奏技能を獲得させると共に仲間と共に演奏する喜びを感じられるように工夫してみた。

グループは任意に4～5人で組ませることとした。アンサンブルでは、単調なコードストロークのリズムに満足することなく、よりよいリズムを工夫することで、思考、判断、表現の能力を育ませたい。また、達成感を持たせたいとの考えから発表会を行うこととした。ここでは、自分たちの意図したことを言葉で発表することで意図を持った演奏をできるように配慮している。また、お互いの演奏については感想を発表することを通し客観的な評価を聴くことにより自身の活動をふりかえさせたり、学習の深化につなげるようにしたいと考えている。

(4) 本時の展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点 教材・教具	評 価
導 入 10	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習 <p>1 学習課題の把握</p>	<p>紙板書</p> <p>楽器の音を聞き耳で調弦させる。</p> <p>紙板書</p>	<p>学習プリント</p> <p>観 察</p> <p>学習プリント</p>
展 開	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">アロハ・オエの旋律と、リズムを工夫したコードストロークで、簡単なアンサンブルをしよう。</p> <p>2 学習課題の追求</p> <p>(1) 予想</p> <p>(2) 手順の確認</p> <p>(3) 課題の追求</p> <ul style="list-style-type: none"> 「アロハ・オエ」の旋律を確認する。(階名唱と演奏) 基本のコードストロークを確認する。C-F-G7 2ビート グループミーティングと練習グループ毎に話し合い役割をきめる。 <p>3 課題の解決</p> <p>【活用のポイント】(表現の技能)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">ストロークのリズムを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表会 工夫したことと、その理由を代表に発表させる。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">感想を発表しあう。</p>	<p>楽 譜</p> <p>手順を確認する。</p> <p>紙鍵盤 リズム学習プリント ピアノ伴奏</p> <p>ピアノで旋律を演奏する。</p> <p>ミーティングの内容を確認をする。</p> <p>1 コーラス</p>	<p>観 察</p> <p>机間巡視</p> <p>観 察</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加しているか(関心・意欲・態度) ストロークの工夫に挑戦しているか(表現の技能) <p>発表観察</p>
終 末 10	<p>4 本時のまとめ</p> <p>全員で演奏する。</p> <p>5 次時の内容の把握</p>	<p>講評を行う。</p>	

